

要 望 書

南砺市長 田中幹夫 殿

H26-049-001 農政課農産振興係

農事組合法人

富山干柿出荷組合連合会



要 望 書

南砺市長 田 中 幹 夫 殿

御貴殿におかれましては、日頃より南砺市農業の発展に御指導・御尽力を頂き、誠に有難うございます。私達 富山干柿出荷組合連合会の組合員一同は、富山県知事様より認定を受けた「富山ブランド」の名に恥じないよう当初の目的に添えるよう日々努力を重ねています。

昨今の干柿生産農家の現状は、米を始めとする農産物と同様に、高齢化と後継者不足により、年々生産農家の減少が続いております。

販売価格の面においては、バブルの破たん以来、大手スーパー・マーケットなど量販店の進出に伴い、「安値」の固定化が進み、市場流通量の減少は市場価格の決定権の弱体化・産地指導力の低下をもたらしています。

近年、干柿生産に使用する機械の研究開発が各方面で進められ、平棚式の干柿乾燥機・柿の皮むき機など新たに開発されていることは、生産者にとりまして大変心強く、喜ばしい限りであり、一日も早い導入が期待されます。

富山干柿出荷組合連合会では、平成22年度に皆様の御協力により、最新の干柿自動包装機の導入を行なって頂きました事により、全国の各産地のモデルともなる取り組みをして高く評価され、衛生的で安全・安心を消費者に届け、量産に努めています。

一方、生産農家の現場では、昭和50年頃より平成10年頃にかけ、第2次農業構造改善事業や、補足事業等により、干柿乾燥棟や電気乾燥機・干柿皮むき機・草刈り機などを導入、使用して来ましたが、20~30年経過し、老朽化が進み更新を余儀なくされている状況ですが、後継者難や価格低迷の現状では、新規購入を躊躇せざるを得ません。

生産者の意欲向上のためにも、補助事業等の御支援をお願いするところであります。数年前より、最近のIT化・デジタル化された干柿の完全自動皮むき機の開発・実用化がなされ、導入使用を希望するものであります。国・県等の御支援をお願い致します。

従来は、

柿のヘタ取り機と皮むき機と別々の機械や手作業で処理を行なっていましたが、今回大玉の三社柿に対応出来るように改良、一台で両方の作業を一貫して行える様になり、時間当たり700個の処理能力を持っております。

特 徴

1. 三社柿と平たねなし柿の両方を、部品の交換なく同じ刃で皮むきする事が出来、1時間700個、1日5000個と大量処理が可能である。

2. 従来のヘタ取り機では、回転する刃に柿のヘタ部分を押し当てる時に、指先を削る危険があったが、新型機では、受け皿に乗せるだけで、押し付ける力が要らないので、疲労が少なく、安全であり、ヘタくずや皮の処理も完全であり、衛生的で作業効率の大幅改善が図られる。
3. むく皮の幅や厚さの調整が簡単に出来、変形果にも対応出来、失敗が少なく歩留り良く処理が可能。
4. 作業終了後、従来はお湯で吸引管や部品の洗浄を行っていたが、今回は水を通すのみの処理で済み、時間がかかるないので作業時間の短縮になり、負担の軽減と量産につながる。

以上の様に、新型機械は作業時間の大幅な削減になり、他の作業に振りむけることが出来、量産、秀品率の向上に貢献できますが、難点は1台当たり150万円と高額であり、農家負担が大きすぎるので、ご支援を要望するところであります。

従来、補助事業は共同利用が原則とされている関係により、1か所に設置・利用となっていますが、干柿作りの特徴であります年間作業期間が短く、施設の使用面積が多いなど、集中させることが困難な作業が多い事を御理解頂きたく思います。
干柿組合が導入し、生産農家への貸し付けなど一括管理を行なう事でお認めをお願い致します。

又、事業導入では成果目標として、面積拡大・生産量の拡大が中心となっていますが、生産農家減少傾向の中では、新たな視点も必要と思われます。意欲的な農家育成を中心据えた規制緩和・見直しをお願い致します。

最後に、技術革新により後継者が育ち、魅力ある干柿産業の発展となる様、さらなる御尽力を重ねてお願い致します。

平成26年10月1日

富山干柿出荷組合連合会
組合長 仲筋英生



